

お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回示します以下の研究では、患者さんのカルテの記録を使用します。

この研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテを利用することをご了解いただけない方は、下記【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【研究課題名】：抗がん剤誘発口内炎に対する治療薬の有効性の評価

【研究機関】：愛媛大学医学部附属病院 薬剤部

【研究責任者】：薬剤部 准教授 田中 亮裕

【研究の目的】

過去に受診された抗がん剤を投与された患者さんの診療録（カルテ）の情報を収集し、有効性について評価する研究を行うことといたしました。この研究は抗がん剤によって誘発される口内炎における有効な治療方法の検討を目的としたものであり、皆様の今後の診療にも役立つことができると考えています。

がん領域における治療は進歩とともに、抗がん剤の使用量や放射線療法の実施が近年増加している一方で、副作用は看過できないものとなっています。副作用の一つである口内炎は、発生頻度が 30~40%と比較的高く、重度の疼痛を伴うことから食事摂取量の減少やコミュニケーション能力の低下など患者の QOL を低下させ、治療の継続に悪影響を及ぼすことがあるため、口内炎を予防・治療することは重要であると考えられます。

しかし臨床現場において、口内炎に対する確立した治療方法はなく、症状に合わせた対症療法が主となっており、まだまだ多くの問題点を抱えているのが現状です。

そこで口内炎に対する治療法を確立させることを目的として、愛媛大学医学部附属病院（当院）において使用される抗がん剤誘発口内炎に対する市販の治療薬および院内製剤についての有効性の評価を行います。

「重篤副作用疾患別対応マニュアル 抗がん剤による口内炎」によると、口内炎の確立した治療方法はなく、症状に合わせた対症療法が主となっています。今回、抗がん剤誘発口内炎に対するアルギン酸ナトリウム+ポラプレジック含嗽液に関する有効性・安定性の評価を検証することで、より良い口内炎治療薬の普及に繋がることを期待されます。

【研究の方法】

（対象となる患者さん）2012年1月～2016年12月までの期間に愛媛大学医学部附属病院において分子標的薬（スーテント、ネクサバル、アフィニトール等）を含む経口抗がん剤が投与された入院患者さん。

頭頸部放射線療法併用中の患者は除外する。

(利用するカルテ情報) 調査の対象となる患者さんの電子カルテから、口内炎治療薬および口内炎の発症時期、食事摂取量を調査し、口内炎、口腔乾燥、味覚異常の程度を調査します。患者背景として、年齢、性別、がん種、薬剤投与量、対象薬剤減量の有無、対象薬剤休薬の有無、投与クール数、前治療の有無、喫煙習慣の有無、飲酒習慣の有無、レジメン名等を調査します。

【個人情報の取り扱い】

収集した情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる個人情報を除いて匿名化いたします。個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

さらに詳しい本研究の内容をお知りになりたい場合は、【お問い合わせ先】までご連絡ください。他の患者さんの個人情報の保護、および、知的財産の保護等に支障がない範囲でお答えいたします。

【研究実施体制】

研究機関：愛媛大学医学部附属病院 薬剤部

研究責任者：准教授 田中 亮裕

研究分担者：

飛鷹 範明

渡邊 真一

松山大学薬学部

畑 晶之

高取 真吾

原 隆裕

【お問い合わせ先】

愛媛大学医学部附属病院 薬剤部

研究責任者： 准教授 田中 亮裕

791-0295 愛媛県東温市志津川

電話番号： 089-960-5731

e-mail: akiki@m.ehime-u.ac.jp

